



創世会
榛村航一

東京女子医科大学 掛川キャンパスの積極的活用を

Q 市南部の地域医療機能強化とともに、初診を受けられゆりかごから墓場までをケアでき、市民・研修医の生涯学習の場となる「地域生涯医療センター」の設置を提案するべきと思うが、市の見解を伺う。

A 東京女子医科大学へは、掛川キャンパスで予定しているエンド・オブ・ライフケアを中心とした専門職や市民の学びや、「生涯健康支援教育研究センター」機能の他に、診療所機能の検討を要望しており、大学と連携して医師等の専門職を呼び込めればと考えています。

リニア中央新幹線問題に利水者として積極対応を

Q 掛川の「命の水」を守り、南アルプスの希少価値の高い自然環境を守っていくためにも、リニア問題を考えるシンポジウムを掛川で開催したら良いと考えるが、市の見解を伺う。

JR東海に働きかけをしていく

A リニア工事によるトンネル湧き水の全量を戻すこと及び、万一、経済活動に支障が出た場合は、水資源の確保ができる対策が必要と考えています。今後も、事業の推移を注視し、流域関係者による大井川利水関係協議会の一員として、JR東海に働きかけをしていきます。また、市民に今の状況を知ってもらう機会を検討していきます。



準絶滅危惧種のヤマトイワナ
南アルプスに生息する



アクティブ
マネジメント・
公明クラブ
窪野愛子

公共施設マネジメントの推進には(仮称)公共施設見直す課の創設を

Q 公共施設マネジメントを着実に進めるには、全職員の意識改革を図り、市民の皆様にもご理解とご協力をお願いするために、分かりやすい名称の専任体制の構築と組織強化が必要と思うがいかがか。

専任部署の設置について検討していく

A 本年度に再配置方針を策定し、この方針に基づき、来年の秋を目途に再配置計画を策定していくので、その後、公共施設マネジメントを行う専任部署の設置について検討していきます。

消防救急体制の充実と適正利用の啓発は

Q 平成30年に医療機関に搬送した約6割の方は軽症者であった。不要不急の救急車の利用を抑制する対策をどのように講じたのか。救急出動の件数を減らすための、救急車の適正利用啓発について伺う。

チラシ作成やイベントなどで普及啓発活動に取り組む

A 広報への掲載のほか、f. a. n. 地域医療を育む会と協働で行う救急講習会や消防が企画する研修などの場で、広く普及啓発を行っています。今後は、より効果的なチラシを作成し、消防フェアや各種イベントにて活用するなど、更に普及啓発に取り組んでいきます。

